

黒潮町カーボンニュートラルの取組

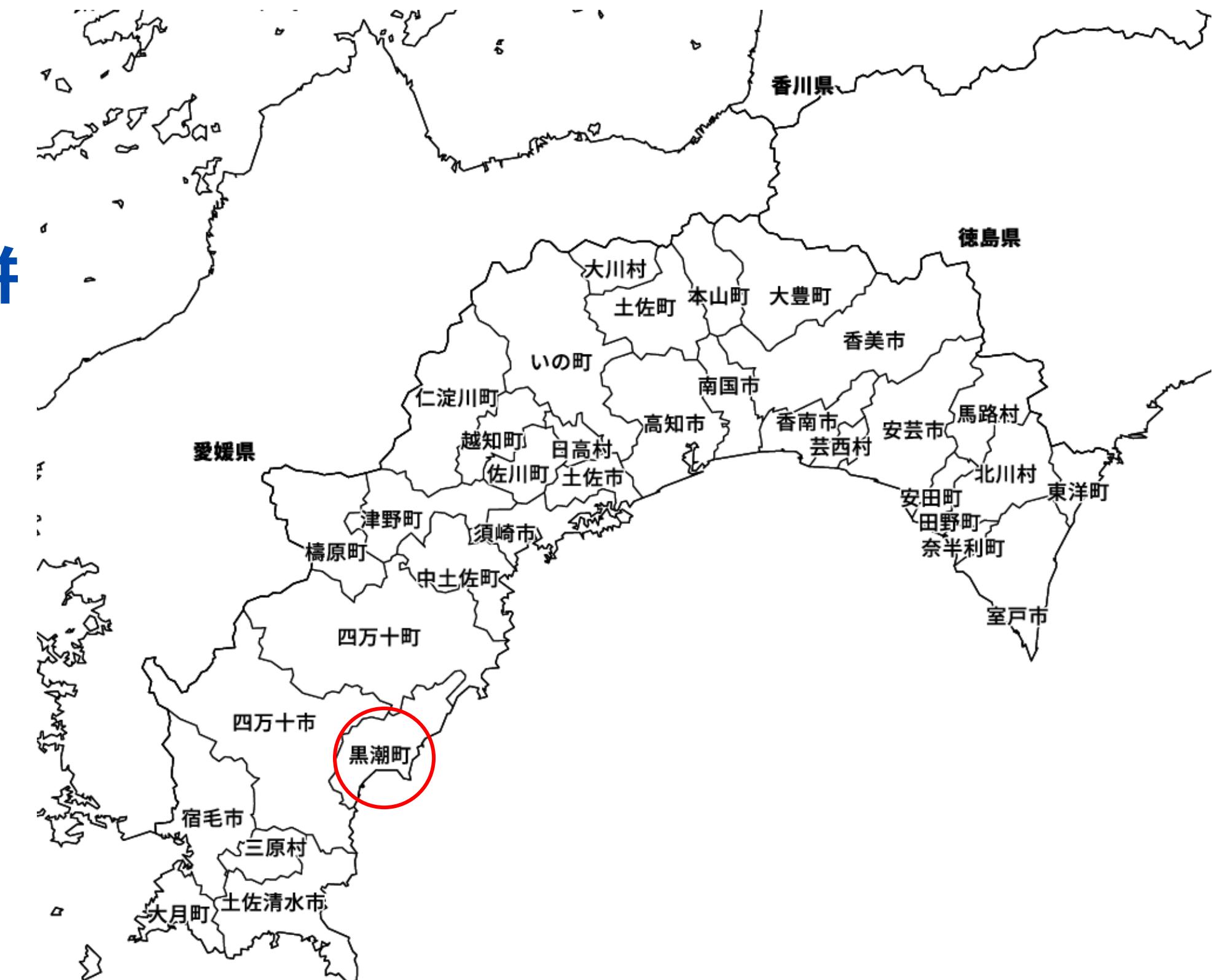
黒潮町環境政策室

CONTENTS

- 1 黒潮町の概要
- 2 黒潮町カーボンニュートラルのあゆみ
- 3 脱炭素先行地域事業について
- 4 「脱炭素×防災」について
- 5 まとめ

1 黒潮町の概要

- ◆ 「旧佐賀町」「旧大方町」の合併
- ◆ 高知県の西南部に位置
- ◆ 面積188平方キロメートル
- ◆ 人口9,982人
- ◆ 世帯数5,304世帯
- ◆ 高齢化率46.7%



延長約35 kmの美しい海岸線を有する町です。

1 黒潮町の概要



カツオの一本釣り



いごっそうアクアスロン大会



天日塩づくり



Tシャツアート展



はだしマラソン全国大会



ホエールウォッチング

1 カーボンニュートラルのあゆみ

黒潮町ゼロカーボンシティ宣言



公共施設等への再エネ設備導入 (PPA)

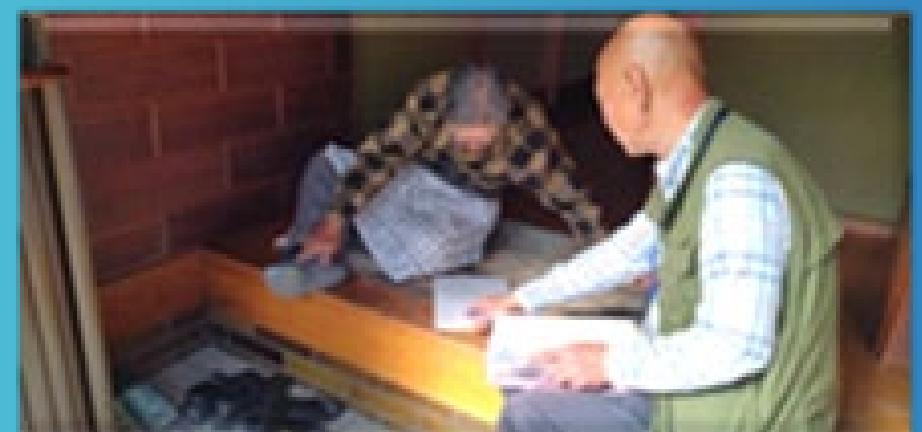


地レジ（環境省）事業にて、避難施設へのPV・BT整備

地域新電力会社設立



「脱炭素カルテ」作成の戸別訪問開始



文教施設のZEB改修



3 脱炭素先行地域事業について



脱炭素先行地域事業

「脱炭素先行地域事業計画提案書」
に基づき実施中

脱炭素カルテ作成

町内全戸を訪問し、省エネ・再度エネの啓発



オンサイトPPA

公共施設・民間施設にオンサイトPPAにて太陽光発電設備の整備



オフサイトPPA

遊休地等を活用し、オフサイトの用地確保、ソーラーシェアリングの実施



自営線マイクログリッドの構築

人口集中エリアでのマイクログリッドの構築



「防災×脱炭素×福祉」による地区防災計画の推進

矢守克也¹・宮川智明²・Gernot Stöcklehner³

¹京都大学・²黒潮町役場・³Boden Kultur Wien (ウィーン環境大学)

地方の小規模自治体にとって、「**(電気) エネルギー**」の面で「**自立・独立**」すること – 大規模な電力供給網からオフグリッドし、地域マイクログリッドとして「自立・独立」すること – は、「一石数鳥」もの複層的な効果を期待できる。日常的には、再エネ利用の促進、EVなどを活用した福祉・交通対策の推進、他方、災害時には、(福祉) **避難所での電力確保による生活環境の改善、医療体制の劣化抑止と情報的孤立の防止**などである。この意味で、近年、地区防災計画においても重視されている「防災×福祉」は、「**防災×脱炭素×福祉**」という形で拡大・再編される必要がある。

防災分野での脱炭素の取り組み

避難所の電源
確保

地域防災計画で指定されている避難所に
太陽光発電設備、蓄電池の整備

避難場所の電
源確保

津波避難タワーへの太陽光発電設備、
蓄電池の整備

電気のバケツ
リレー

EV・V2Lによる電力供給

避難所の電源確保

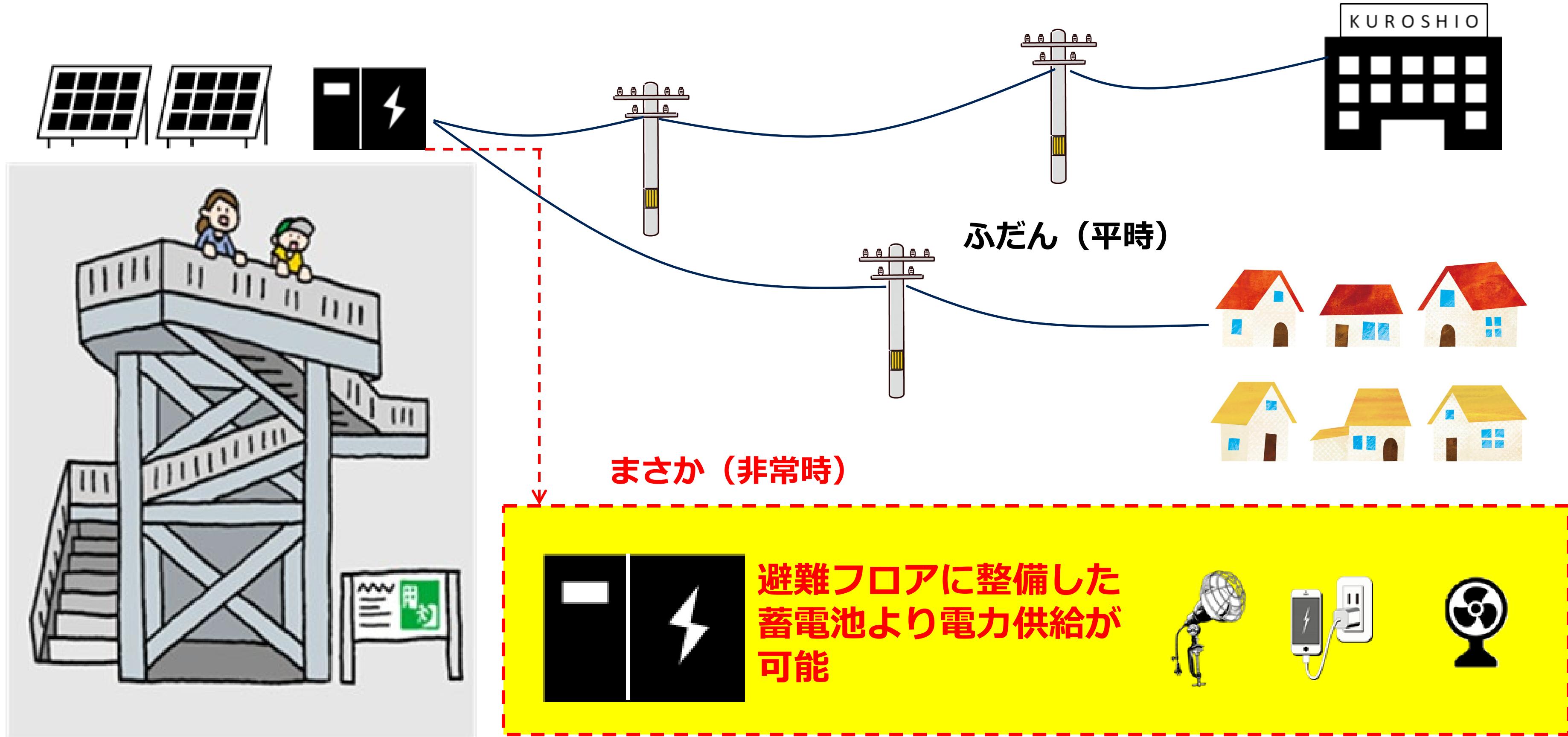


避難所への太陽光発電設備・蓄電池の導入

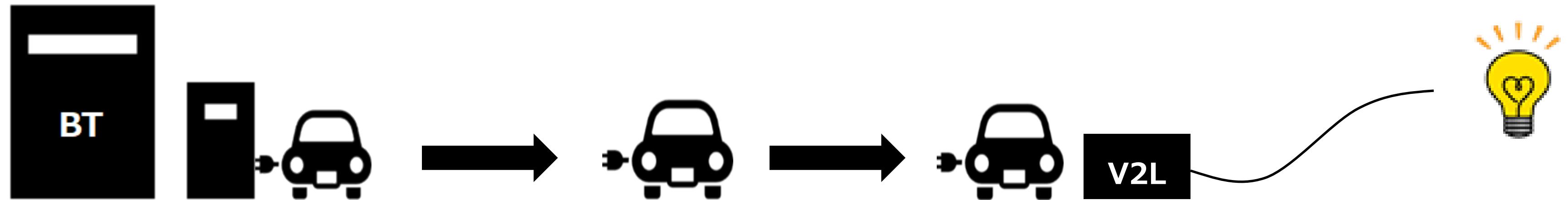
避難場所（津波避難タワー等）の電源確保



避難場所（津波避難タワー等）の電源確保



電気のバケツリレー



電気のバケツリレー

EV（電気自動車）が整備されることで、エネルギー効率が向上

電気は・・・

「つくる」ことも「ためる」ことも「はこぶ」ともできる。

発電

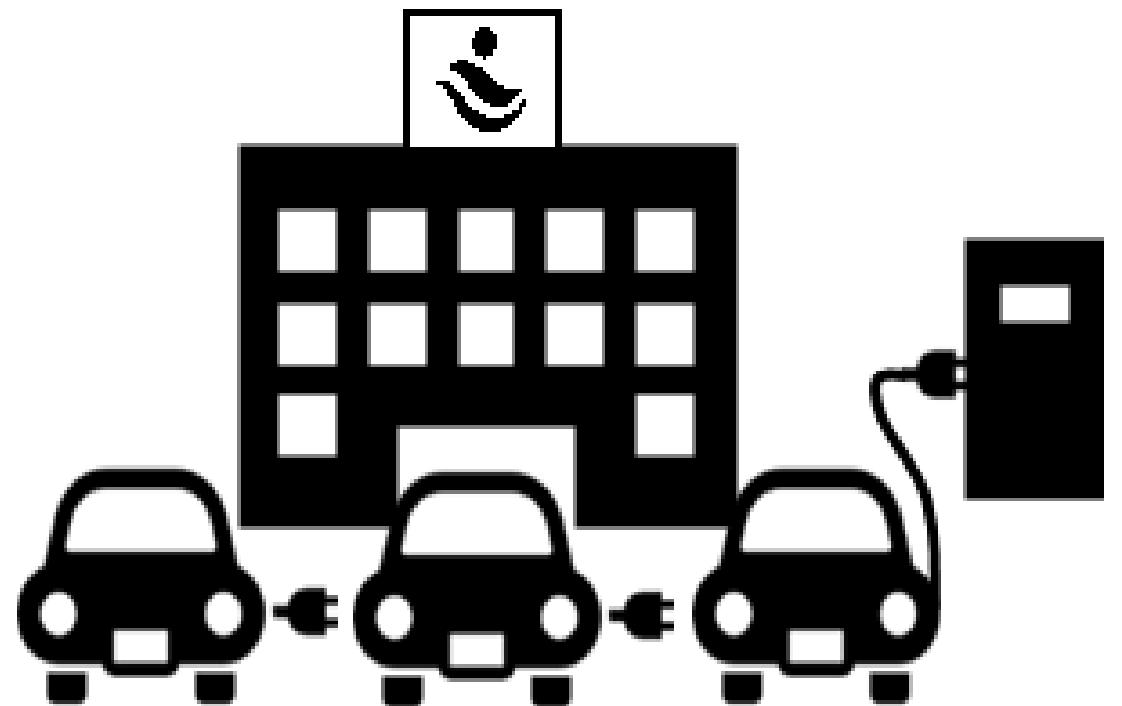
蓄電

外部給電



EVは「走る蓄電池」である。

電気のバケツリレー



大型蓄電池 (1MWh)



急速充電器 (50kW)



ふだん（平時）：イベント等で電源車として活用



まさか（非常時）：避難所等への電力供給



脱炭素×〇〇

「脱炭素×防災×観光」

2025.年7月30日：日経新聞

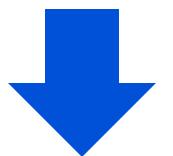
津波への備えを観光資源に 黒潮町観光ネットワークの高石
さん *Portrait*

2025/7/30 5:00 | 日本経済新聞 電子版

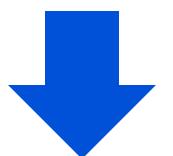


一般社団法人黒潮町観光ネットワーク事務局長、高石麻子さん

津波への備えの防災資産
(太陽光発電設備・蓄電池・V2L)

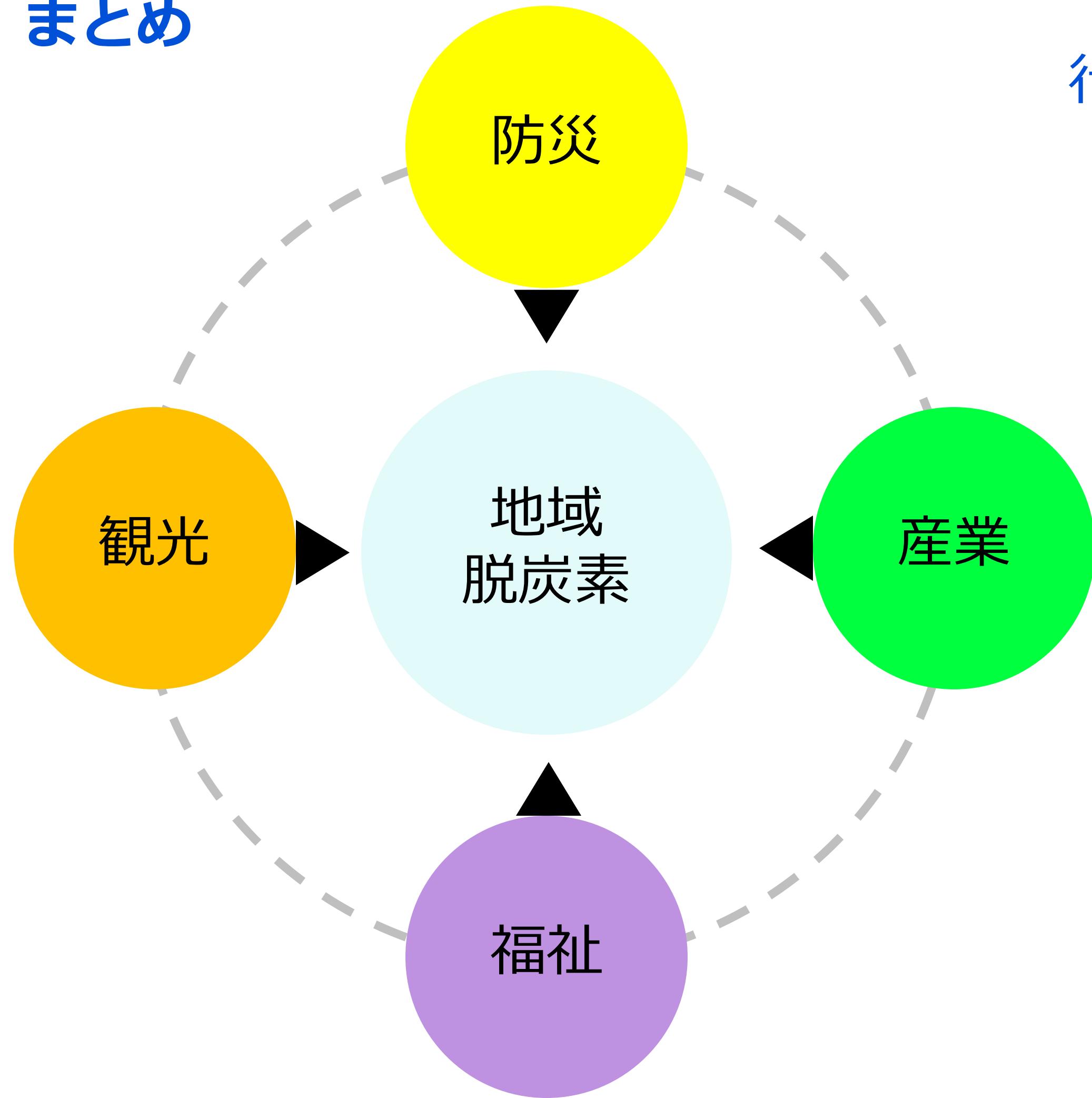


観光資源



防災ツーリズム（観察）の受け入れ

まとめ



行政施策を進めるうえで・・
「脱炭素」の視点を！

地域レジリエンスの向上

産業経営収支の改善

ゼロカーボン福祉の実現

防災ツーリズムの推進

地域脱炭素を進めることで
「地域課題」を解決